



令和4年2月1日  
富士市立須津小学校  
学校だより（2月号）

## 感謝の気持ちを

校長 望月 秀一

今日から2月。3日は節分。4日は立春。暦の上では春を表していますが、今年はいつもの年より厳しい寒さが続いています。新型コロナウイルス対応ではご心配をおかけしています。学校では、できるだけ他学年の接触を避けるために、休み時間の短縮や、手洗い・うがい、換気の時間を取るなど日課を変更したり、特別活動等を延期したりするなど、感染対策を行っています。ご家庭におきましても、感染予防対策を行っていただき、感染した方やその家族に対する詮索や誹謗中傷することがないように、ご協力をお願いいたします。コロナの第6波がいつ収まるのか見通しがもてない中で、できるだけ中止するのではなく、縮小や変更しながら教育活動をすすめてまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

1月24～30日まで全国学校給食週間でした。これに合わせて本校でも、日頃食べている給食を見つめ直したり、感謝の気持ちを表したりする週間としました。子どもたちが作った感謝を伝えるメッセージには、自分の好きな献立を伝えるものや給食カルタにして感謝の気持ちを伝えるなど、一人一人が自分の言葉で温かい思いが書かれていました。この活動から、給食を作ってくださっている栄養士さん、調理員さんへの感謝の気持ちをもつことや、自分たちが多くの方に支えられて生活ができていることに気付いてほしいと願っています。



児童会では『やさしさいっぱい学校』を目指して1年間取り組んできました。「やさしさの花」を咲かせようと、「あいさつ」「やさしさ」「そうじ」の3つについて花卉に仲間の頑張っている姿を書き、互いのよさを認め合う活動をしました。「あいさつ」では、毎日、元気に挨拶をしている仲間を認める姿や、仲間からの挨拶に喜びを感じる姿などから、挨拶の大切さを実感していることが分かりました。「やさしさ」では、仲間のやさしさに嬉しさを感じた花卉が多くありました。「そうじ」では、仲間の黙々と掃除を頑張る姿を認め、自分も見習って掃除を頑張りたいなど強い思いが伝わってきました。この活動から、仲間のよいところに気付いながら、やさしさの輪が広がってほしいと感じています。



須津地区で古墳を巡るスタンプラリーが行われました。11月に6年生は須津ふるさと愛好会の皆様のご協力を得て、須津地区の古墳巡りを行いました。その後、学習のまとめとして須津地区の古墳のすばらしさを発信したいとの思いからリーフレット作りに取り組みました。学習で学んだことを地域につなげる思いから、例年よりも多くの子どもたちがスタンプラリーに参加しました。須津地区の宝物である古墳をこれからも子どもたちの学習に生かしながら『地域とともにある学校』を目指していきたいと思えます。須津ふるさと愛好会の皆様、大変お世話になりました。